

カービュー マーケットウォッチ (2010年10月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー(本社:東京都中央区、代表取締役:松本 基)は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

乗用車全体で14カ月ぶりに前年を下回る!

10年9月順位	10年8月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	27,249
2	(2)	→	フィット	ホンダ	14,622
3	(4)	↑	フリード	ホンダ	11,939
4	(5)	↑	カローラ	トヨタ	10,990
5	(3)	↓	ヴィッツ	トヨタ	10,096
6	(9)	↑	セレナ	日産	7,102
7	(8)	↑	パッソ	トヨタ	6,658
8	(14)	↑	マーチ	日産	6,630
9	(11)	↑	ノート	日産	6,610
10	(25)	↑	エルグランド	日産	6,353
11	(6)	↓	デミオ	マツダ	6,101
12	(7)	↓	ステップワゴン	ホンダ	5,906
13	(18)	↑	キューブ	日産	5,872
14	(10)	↓	ヴォクシー	トヨタ	5,863
15	(23)	↑	エクストレイル	日産	5,151
16	(12)	↓	ノア	トヨタ	5,082
17	(20)	↑	ティーダ	日産	4,471
18	(17)	↓	エスティマ	トヨタ	4,458
19	(24)	↑	スイフト	スズキ	4,361
20	(16)	↓	ウィッシュ	トヨタ	4,280

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■乗用車全体で14カ月ぶりに前年を下回る！

ただし輸入車、軽乗用車はプラスをキープ

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した9月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は40万663台、前年同月比は96.8%と14カ月ぶりにマイナスに転じた。

新車購入補助金が9月7日分で締め切れ、その反動減が心配されたが、それが現実になった形だ。特に5ナンバーの小型車が13万7728台で、前年同月比87.8%と2ケタの落ち込みとなり、3ナンバーの普通車が14万555台／前年同月比102.3%、軽乗用車も12万2380台／同102.2%と前年を上回ったものの、全体では前年割れとなった。

トヨタは前年に比べ、10～12月は3分の2程度、来年1～3月は2割減程度との予測を表明しているが、金融危機の引き金となるリーマンショックが起こった08年9月と比べると、同月比は100.8%。10月以降の売れ行きに注目したい。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車（新型日産マーチ分含む）は25万6118台で、前年同月比93.4%。メーカー合計ではトヨタ、ホンダ、マツダ、スズキの前年同月比がマイナスになったが、日産、スバル、三菱、ダイハツは前年を上回った。ニューモデル攻勢に出た日産は、「マーチ」が前年同月比172.8%の6630台、「エルグランド」も638.7%増の6353台と好調で、日産全体では5万2441台と6カ月ぶりにホンダを上回った。月間ランキングでは17カ月連続トップの「トヨタ プリウス」と18カ月連続2位の「ホンダ フィット」は安泰。3位にはスパイクが5867台と好調な「ホンダ フリード」がワンランクアップ。日産勢は6位「セレナ」、8位「マーチ」、9位「ノート」、10位「エルグランド」と4車種がトップ10入りとなった。

軽自動車は、貨物車を含めた軽自動車全体でも16万3291台で、前年同月比104.6%と9カ月連続のプラス。もともと補助金が3/5ナンバー乗用車より少額のため、制度終了の影響が少なかったのかもしれない。

輸入乗用車は新型マーチなどの日本メーカー製を除いた海外メーカー製のみでも、2万1724台、前年同月比113%と11カ月連続で前年を上回った。海外メーカーブランド別乗用車ランキングは、メルセデス・ベンツが4701台で、08年9月以来のトップを奪取。2位はVW（フォルクスワーゲン）で4557台、3位は4130台のBWM（ミニを除く）。メルセデス・ベンツは8月に追加した399万円からのエントリーモデル「C200 CGI ブルーエフィシェンシーライト」が起爆剤となったようだ。

■ココも気になる！その1

新型コンパクトの登場でバトルが激化？

前年同月比 87.8%と、新車購入補助金制度終了の影響をもろに受ける形となった5ナンバー乗用車。なかでも「ホンダ フィット」や「トヨタ ヴィッツ」といったコンパクトクラスは車両価格に対する補助金の相対比が大きかったこともあって、前年同月比はフィット 84.8%、ヴィッツ 79.3%、「トヨタ パッソ」61.7%、「マツダ デミオ」87.4%などと、7月にモデルチェンジしたばかりの「日産 マーチ」を除き、軒並み大きく落ち込んだ。

ただ、フィットは10月8日にマイナーチェンジされ、注目のハイブリッドを追加。ハイブリッドを含むフィット全体の月間販売目標は1万4000台だが、すでにハイブリッド1万台、ガソリン車4000台の受注を集めたというから、スタートダッシュが期待できそうだ。また8月発表、9月18日発売の「スズキ スイフト」も専門家筋の評判は上々。台数的には販売日数が少ないこともあり、新旧含め4361台、前年同月比93.3%とまだまだだが、今後は伸びていく可能性が高い。さらにトヨタも11月に「ラクティス」、12月に「ヴィッツ」と立て続けにモデルチェンジを敢行予定。これでマーチを含め、各メーカーの主力コンパクトが新しくなって勢揃いすることになるわけだ。

となると、デザインや使い勝手だけでなく、燃費性能もガチンコ勝負。フィットハイブリッドの30km/リッターを筆頭に、マーチ（アイドリングストップ機構付き）が26km/リッター、フィット 1.3 が24.5km/リッター、スイフトが23km/リッターと大接近。新型ラクティスも20km/リッター超が確実と見られ、ヴィッツは新開発のアイドリングストップ機構を採用し、燃費性能でマーチを上回るとの情報もある。これまでフィットをヴィッツやマーチが追う展開だったが、この勢力図がどう変わるのか。年末にかけて目が離せない。

■ココも気になる！その2

メルセデス・ベンツが目指すエコカーフルラインナップ化

世界的な金融危機により、昨年メルセデス・ベンツは、日本で2万8739台（乗用車のみ）、前年比77.7%、世界市場でも109万3900台（マイバッハ、スマート含む）、前年比85.9%と厳しい戦いを強いられた。しかし昨年投入した「新型 Eクラス」が好調に推移。またメルセデス・ベンツが得意とするアッパープレミアムクラスは、各国で実施された販売刺激策の恩恵をあまり受けられなかったが、刺激策終了の影響は反対に少なく、順調に回復。今年上半期は、日本で1万5545台、前年同期比113.2%、世界市場でも61万9600台、前年同期比119.4%とプラスとなった。日本でもEクラスが好調で、9月末時点で8589台、前年同期比166.9%と、昨年の最量販車種「Cクラス」の7172台、同97.7%を上回った。

そんな復調傾向のメルセデス・ベンツの次の一手はエコカーの充実だ。昨年日本に導入された「Sクラス ハイブリッド」に続き、今年2月には世界で一番厳しいといわれる排ガス規制、ポスト新長期規制をクリアしたクリーンディーゼル車「E350 ブルーテック」を投入。これが発売後約1カ月で500台超の受注となり、Eクラス全体の約30%を占める人気となった。クリーンディーゼル車は、5月にプレミアムSUVの「ML350」に設定するなどラインナップを充実させている。

そして、9月にはAクラスベースの電気自動車「Aクラス E-CELL」の生産を開始。まずは500台の予定で、ヨーロッパでレンタル方式によるリース販売を行うという。さらに、10月にはスマートベースの電気自動車「スマート ed」が日本上陸。このスマート ed は2012年以降の市販化が予定されているが、そのための実証テストが日本で行われるのだ。この実証テストは昨年12月にドイツ・ベルリンでスタートし、今夏からは北米でも展開。ヨーロッパメーカーとしては初の日本におけるEV実証テストとなる。日本では一般ユーザーもテストに参加できるというから、続報を待とう。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報・法務室 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
